



夢・いっぱい

第10号

令和4年12月22日

2022年度の経営方針

今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

校長 栗林 孝幸

年の瀬に寄せて

2学期も明日終業式を迎えます。季節は、夏から秋、そして冬へと移り変わりました。木々も夏の暑さや冬の寒さの中で生長し、子どもたちも日々の授業や、学校行事、友達との時間の中でこの2学期大きく成長しました。うれしい、楽しいことばかりではなく、悔しいことや悲しいこと、腹が立つことなどもありました。子どもは自然の一部です。自然と同じように、様々な経験の中で成長します。親の役割は、それをそばで支えながら「何をこの子に学ばせるか」「どうやって自分で乗り越えさせるか」を考えることです。そこには忍耐が必要になります。そうやって親は親になっていく、大人になっていくと昔先輩の先生に教えていただきました。とはいえ、自分の子育てを振り返るとたくさんの後悔があります。それでもなんとか育ててくれたのは、周りの方々や友達のおかげだと思っています。親としてできることは減ったとはいえ、子どもが成人しても子育ては続きます。子どもの成長に合わせて自分自身も成長しなければと思っています。



話は変わりますが、体の成長など目に見える成長はわかりやすいのですが、心の成長など目に見えない成長には気づくことが難しく、それを褒めてもらったり認めてもらったりすることが少ないのが現実です。しかし、家族や兄弟、友達に対する気遣いや物事に取り組む姿勢、時間やルールを守ろうとする規範意識などどれをとっても将来とても大切な力となります。



目には見えにくいけれどもよく気をつけてみると、その子どもの姿や様子にそれが現れます。「あゆみ」の評価も大切ですが、あくまでもそれはその子の成長の一部でしかありません。この年末にじっくり親子で語り合う時間がとれますようお祈りしております。

本年も大変お世話になりました。ありがとうございます。来年もよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。

